



こだち News

巻頭言

マイライフ・アズ・ア・ドッグ

鐘 幹八郎 先生 (ふたばの里精神分析研究室)



これは映画の題名です (ラッセ・ハルstrom監督、1985年、スウェーデン映画)。孤独な生活をする少年が、犬に同一化することでこころの辛さをやり過ごすという姿を描いています。見ていて、切なくて、寂しくて、悲しくて、美しく、溜息がでしてしまう映画です。少年の名前はイングマル。兄がいます。母子家庭のようです。父は南の海に出かけているということですが、どうもいないらしい。父の影が感じられません。母は結核。かなり重症であり、咳をすると血を吐いたりしています。もう日本にはほとんどない病気です。しかし、戦後すぐの日本では一番多い病気でした。伝染病です。死因としても1, 2を争っていました。結核では身体の休養と栄養が大事です。休養ができず、食べ物がなければ病気は悪化して死ぬしかありません。私も若い時に、結核に罹患したことがありますので、実感としてわかります。母親はいつもベッドで寝ています。

イングマルは少年期の元気盛りの男の子。思春期のちっと前の時期の少年。この頃は同性の子たちと群れて遊ぶのが大事な時期です。いつも身体を動かし、じっとしておれない状態です。イングマルはシッキャンという名前の犬をかわいがっています。一番の友達。この犬と戯れるのが、イングマルの毎日の生活です。静かに寝ている母のベッドの下に入り込んだりする犬を追って騒ぎまわる。母親はたまりません。頭に来て、イングマルを静かにさせたいのだが、とても静まるような子ではありません。母親が入院することになります。子どもの面倒を見る人がいないので、親戚に預けるということになる。イングマルは母の弟が預かることになります。この田舎には何人かの同年の少年期にある子供たちがいます。女の子サガも思春期寸前の、男と同じような遊びをするのが好きな、がき大将です。性の意識がまだ見えません。サッカーをしたり、ボクシングをしたり、男の子と対等に遊んでいます。イングマルも仲良くなります。喧嘩の相手でもあります。サガはボクシングが好きです。その相手がイ

ングマル。胸の乳房が少しふくらみはじめているのを気にして (ボクシングに邪魔なので)、帯のようなものを巻くところがあります。まだ体の変化が何を意味しているか、わからないサガが本当にかわいい。あと3か月、あるいは半年したら、体の様子が変わってしまうだろう思春期に入る寸前の女の子の清らかな美しさ。その一瞬の姿をとらえている映画のシーンは見事です。

しかし、一方、大人には大人の事情があり、仕事も人間関係も簡単ではありません。イングマルはオジさんのところでも、よく叱られます。叱られると、彼はワンワンと犬になって吠えます。オジの叱責や命令にどうやって言い訳をしたらよいのだろうか。ことばのない彼には、吠えるしかありません。辛い思いをしているのだが、イングマルはこころの中で独り言をいうだけです。「僕は、世界で初めて打ち上げられたソ連の人工衛星の中に入れられた犬よりまだましだ。」
「あの犬は人口衛星とともに、永久に宇宙を回って、死んでしまったのだから。」ワフワフと声を上げて吠えます。オジさんはイングマルの行動が全く理解できません。この子は狂ったのだと思う。平気な顔をして、普通に他の友達とつき合ったりしているイングマルの心は、犬しか理解できないのでしょうか。犬のシッキャンだけでしょうか。自分も犬となって吠えるしかない。だから吠え続けます。おじさんは途方にくれて、手も足もでない。

思春期直前の、性に目覚める直前の、まだ男と女の差が現れていない子どもの行動。悪意はないのに、何をしても周囲の人とズレてしまう行動をするイングマルをみていると、こちらが泣けてきます。自分の心を言葉で言えない、行動をすると周囲を困らせてしまうイングマル。深く母を求めているのに、こころのさびしさは誰にもわかってもらえない。僕はまだ地上にいるから、宇宙をぐるぐる回っている人工衛星の中で、ひとりで死んでしまった犬よりまだましだと、犬になってワフワフと叫んでいるのです。

第九回定時総会特別企画

「鑑幹八郎先生 特別講演会」のご報告

2015年5月23日（土）13時～15時、九州大学西新プラザ大会議室にて、鑑幹八郎先生（ふたばの里精神分析研究室）をお迎えして特別講演会を行いました。テーマは「エリクソンの世界と心理臨床」でした。当日の様子を会員の皆様にご報告致します。

はじめに、「エリクソンという人」というテーマでのお話がありました。エリクソン（E.H.Erikson）の少年時代から、どのような現場で臨床をしていたのかについて、そして、晩年に至るまでをご紹介頂きました。エリクソンは、「ライフサイクル」や「アイデンティティ」などの用語で有名ですが、エリクソン自身の生い立ちを含めて理論を学ぶ機会はありません。貴重な機会になりました。



次に、精神分析の理論とエリクソンの理論及び臨床についてのご説明を頂きました。フロイトのリビドー論と力動論、対人関係学派の理論、転移についての理解の仕方などについて、わかりやすく教えてくださいました。エリクソンの「ライフサイクル論」についても、図表を用いて丁寧にご説明を頂きました。「エリクソンの臨床」については、エリクソンが担当した事例を交えてご紹介頂きました。「こころの問題は「発達ズレ」であり、こころの発達を見極めて、そのズレを修正していくことが心理療法。どのように、発達を修正し、ライフサイクルを全うしていくかが、臨床家の課題」という

お言葉があり、心理臨床家がすべきことを明確に示して頂いたように思われます。

最後に、「よい治療者とは何か？」ということについて、鑑先生からご示唆を頂きました。この誌面上でその内容を全てお伝えすることはできませんが、先生がまとめとしてご提示くださったことを以下に紹介します。

- ・理論枠をもって、事例を考え抜くこと。
- ・毎回、繰り返して考え直すこと。
- ・相手と面接の力に基本的信頼を持ち続けること。
- ・そして、待つこと。辛抱強く、正面から取り組むことが、実りを生む。



質疑応答では、面接におけるwhy（なぜ）という言葉の使用について、転移と逆転移の理解について、そして、エリクソンの人柄についての質問がありました。エリクソンの人柄については、鑑先生がエリクソン本人とお会いした時の印象では「ユーモアを好む方」だったそうです。エリクソンをこれまでよりも身近に感じられました。

参加者のアンケートでは、「エリクソンについて理解がとて深まった」「心理面接の基本的で一番大切な部分を教えて頂いた」などの感想があり、皆様に満足して頂けたようです。

当法人設立九周年記念

「神田橋條治先生 公開スーパービジョン」

日時 2015年11月8日（日）10:00～13:00（9:30開場）
場所 九州大学西新プラザ 大会議室（福岡市早良区西新2-16-23）
対象 臨床心理士（受験資格者を含む）、医師、コメディカル、臨床心理学を学ぶ大学院生
定員 200名
参加費 こだち会員・学生：2000円、非会員：3000円
詳細は、公開スーパービジョンのチラシをご参照ください。



研修会のご報告

「Q-Uアンケートの理解と活用・校内研修の方法」

2015年7月12日（日）10時～17時、「Q-Uアンケートの理解と活用・校内研修の方法」を開催いたしました。この研修会は、今年度新しく企画した研修会です。スクールカウンセラーの業務は個別相談だけでなく、多岐にわたります。教員研修の講師を要請されることはしばしばありますし、近年はQ-Uアンケートの見方を先生から助言を求められることも多くあります。今回の研修は、そうした多様な業務に携わるスクールカウンセラーのスキルアップをねらった研修会でした。

当日は現在スクールカウンセラーをなさっている方を中心に、22名の方にご参加頂きました。講師は九州大学大学院教授であり、当法人専務理事の増田健太郎でした。増田は教育領域だけでなく、様々な領域の対象者に向けて毎年数多くの研修を行っています。

研修会は、①校内研修の基本について、②校内研修の

方法の具体的な学習、③Q-Uアンケートの基礎学習、というプログラム構成でした。①②では、増田が参加者の皆様に研修の“コツ”を惜しげもなく伝えていました。ワークなどを織り交ぜつつのレクチャーで、参加者の皆様は楽しみながら参加していらっしゃいました。③では、ローデータからプロット図を作成し、アセスメントと具体的な支援方法を考える演習を行いました。グループで話し合うことにより、様々なアイデアが生まれていました。

今回の研修会で得られた体験を、日常の臨床のお役に立てて頂けたら幸いです。



体験的に理解した研修会 佐賀県スクールカウンセラー 宮本 純子

「Q-Uの理解と活用・校内研修」に参加した。Q-Uアンケートでは、結果を実際にプロットし、そこから生徒や学級の様子が見えてくることを体験した。6時間に及ぶ研修会はあっという間に過ぎ、参加者を惹きつけるタイムマネージメント術やグループの使い方を先生の講義の進め方から学ばせていただいた。体験的に理解し、充実した研修会だった。

校内研修とQ-U理解についての研修に参加して 福岡市スクールカウンセラー 日尾野 愛

今回増田先生の研修会に参加して、「講演を聞く」という受動的な研修ではなく、参加者が本当の意味で参加する「体験型」の研修会のあり方に触れることができました。また、そうした研修会をする上での工夫を丁寧に解説して頂き、自分が校内研修をする際のヒントを頂けたと思っています。これまで学んできた心理学が、日常生活の中でどのように活用できるのか説明可能なのか、これから考えていきたいと思えます。

こだちの事務局員と準事務局員に聞きました！「私のリラックス法」



旅行の計画を立てる
(実現しそうになくても)

好きな遊び、趣味をすること ぼーっと空を眺める

DVDを観る（「かもめ食堂」）
ゲーム音楽を聴く

好きな飲み物をゆっくり
味わいながら飲むこと

チョコレートを食べる

ハーブティーを飲む

よく食べ、よく寝ること

飲酒

ラベンダーのアロマ
オイルを嗅ぐ

寝る前にアロマを焚いて
ストレッチ

入浴剤を入れたお風呂に
入って、歌を歌う

思いっきり伸びをする

からだを動かす
(ストレスを感じたときほど
動いたほうがいいのかも)



外を眺めながら深呼吸

ワニさん体操（神田橋條治先生
著「精神科養生のコツ」参照）

音楽をかけながらお風呂



掲示板

こだちよりお知らせ

書籍紹介

『発達障害の疑問に答える』

黒木俊秀 編著
慶應義塾大学出版会

本書は、月刊誌「教育と医学」に掲載された発達障害に関する論考を加筆修正し、編集したものです。発達障害についての基礎知識から、教育現場での対応や本人・保護者・きょうだいへの配慮に至るまで、わかりやすく説明されています。この本には、“千差万別な個性を持つ発達障害のある方々に対する「柔らかなかわり」と結びつくように”という編著者の黒木俊秀先生の願いが込められています。対人援助職や一般の方など、幅広い方々にお勧めの一冊です。



『教師・SCのための心理教育素材集 生きる知恵を育むトレーニング』

増田健太郎 監修 小川康弘 著
遠見書房

教師やスクールカウンセラーとして、子どもたちへの心理教育の必要性を感じている方は多いのではないのでしょうか。本書では、これまで行われてきた心理教育に関する考え方が体系化され、まとめられています。また、実際に心理教育を実施する際の留意点や、ワークシートなどの資料も沢山盛り込まれている、実践的な書となっています。本書購入後、遠見書房にメールを送ると、ワードファイルで略案や教材プリントが送付されるため、カスタマイズを行って、活用することが可能です。当法人専務理事の増田健太郎が監修いたしました。



○入会のご案内

こだちは今年で9年目を迎えます。地域に定着した心理臨床サービスを継続するには、収支の安定が求められます。NPO法人の会員となって私たちの活動を支援いただくと幸いです。会員になっていただける方はぜひこだちまでご連絡ください。なお、**会費は1年毎の更新制です**。会員の方で本年度分の会費の納入がお済みでない方は納入をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

○ご支援のお願い

当NPO法人では会員以外の方からも、ご寄付をおまわしております。関心や興味をもたれた方はぜひご連絡ください。

編集後記 「私のリラックス法」コーナーはいかがでしたか？事務局員・準事務局員にリサーチした時、「人に言えない方法もある」という意見がありました。それを聞き、「私だけのリラックス法」を探すのも大事だと思いました。(Y)

交通のご案内



■ 地下鉄でお越しの方 ■

福岡市営地下鉄空港線西新駅下車後
7番出口より徒歩にて約10分



特定非営利活動法人 九州大学こころとそだちの相談室

〒814-0002
福岡市早良区西新2-16-23 九州大学西新プラザ内 産学交流棟

TEL 092-832-1345 FAX 092-832-1346
HP <http://kodachi.or.jp/>